

I 施設の概要		施設コード		S10-02-02		
施設名	熊野前ひろば館					
所在地	東尾久五丁目9番3号(男女平等推進センター併設)					
部課名	子ども家庭部児童青少年課					
施設の履歴	時期	建築費 (単位:千円)	財源内容 (単位:千円)			
			国・都	区債	一般財源	
	建築	平成9年	347,575			
	増改築①					
	増改築②					
併設施設						
竣工年月日	平成9年3月29日			区職員	その他	
供用開始年月日	平成9年4月1日		職員数	13	0	
構造	R C造		階層	地上3階、地下2階		
面積	敷地面積	男女平等推進センター敷地内(1,031.56) m ²				
	延床面積	599 m ²				
設置目的・経緯	児童福祉の増進					
関連部署	総務企画課、区民施設課					
根拠法令等	荒川区区民ひろば館条例・同施行規則					
設置条例	荒川区学童クラブの運営に関する条例 等					
駐車場の状況	無	バリアフリー	●エレベーター	●トイレ		
駐輪場の状況	30台	対応状況	●点字ブロック	●スロープ		



管理形態	直営	-	期間	-	から
				-	まで

事業内容	地域の子育て支援・児童健全育成の拠点として、居場所の提供・様々な事業の実施により、乳幼児・小中高生の心身の発達支援を行うとともに、子育て家庭と保護者が抱える問題の発生予防及び早期発見に努める。また、館内において学童クラブを運営している。
------	---

対象者	0歳～18歳未満の児童及び乳幼児の保護者、学童クラブ利用児童
-----	--------------------------------

運営時間等	運営時間	午前9時30分～午後6時（学童クラブは午前8時15分～午後7時）
	休日	日曜日、祝祭日、年末年始

		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度（見込み）
施設基本データ等	年間利用者数（人）	15,946	20,907	23,883	28,554	29,200
	開館日数（日）	226	293	293	293	293
	学童クラブ定員（人）（4/1）	50	50	50	50	50
	学童クラブ在籍者数（人）（4/1）	33	19	23	42	36
に指定管理 用等に係る費 管理						

感染症対策を行いながら、事業を実施した。

勘定科目		R4年度	R5年度	差額	(単位:円)					
勘定科目		R4年度	R5年度	差額						
行政コスト計算書	行政費用	給与関係費	71,193	70,526	▲ 667	行政収入	地方税等	0	0	0
		物件費	7,350	4,614	▲ 2,736		国庫支出金	7,758	2,709	▲ 5,049
		維持補修費	654	1,577	923		都支出金	9,871	4,639	▲ 5,232
		扶助費	0	0	0		分担金及び負担金	1,027	1,201	174
		補助費等	404	157	▲ 247		使用料及び手数料	202	89	▲ 113
		減価償却費	10,006	10,006	0		その他	0	0	0
		不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0		行政収入合計(a)	18,858	7,437	▲ 10,220
		賞与・退職給与引当金繰入額	3,134	6,854	3,720		行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 73,883	▲ 86,297	▲ 11,213
		その他行政費用	0	0	0		金融収支差額(d)	0	0	0
		行政費用合計(b)	92,741	93,734	993		通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 73,883	▲ 86,297	▲ 11,213
		特別費用(g)	0	0	0		特別収入(f)	0	0	0
		特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0		当期収支差額(e)+(h)	▲ 73,883	▲ 86,287	▲ 11,213

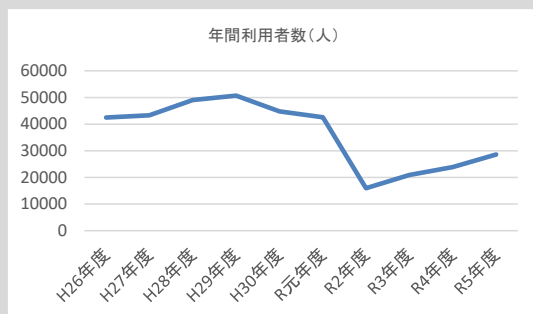
		勘定科目	R4年度	R5年度	差額	勘定科目	R4年度	R5年度	差額
貸借対照表	流動資産	収入未済	0	0	0	流動負債	3,134	3,589	455
		不納欠損引当金	0	0	0	還付未済金	0	0	0
		その他の流動資産	0	0	0	特別区債	0	0	0
	固定資産	有形固定資産	100,988	90,981	▲ 10,007	賞与引当金	3,134	3,589	455
		土地	0	0	0	その他の流動負債	0	0	0
		建物	356,857	356,857	0	固定負債	35,686	30,793	▲ 4,893
		建物減価償却累計額	▲ 255,870	▲ 265,876	▲ 10,006	特別区債	0	0	0
		工作物等	0	0	0	退職給付引当金	35,686	30,793	▲ 4,893
		工作物等減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
		無形固定資産	0	0	0	負債の部合計	38,820	34,382	▲ 4,438
		建設仮勘定	0	0	0	正味財産	62,168	56,599	▲ 5,569
		その他の固定資産	0	0	0	正味財産の部合計	62,168	56,599	▲ 5,569
	資産の部合計	100,988	90,981	▲ 10,007	負債及び正味財産の部合計	100,988	90,981	▲ 10,007	

令和5年度の行政費用については、多目的室バスケットゴール上下調節装置取替工事等の修繕費が増加し、維持補修費が増加した。

指標	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度(見込み)
有形固定資産減価償却率(%)	66	69	72	74.5	
1㎡当たりコスト(円)	177,516	160,955	154,917	156,576	
経費に占める収入の割合(%)	16	17	20	7.9	
開館1日当たりコスト(円)	470,221	328,860	316,522	319,911	
利用者1人当たりコスト(円)	6,664	4,609	3,883	3,283	
人にかかるコストの割合(%)	69	82	80	82.6	
財務指標・評価指標等					
備考	維持補修費、賞与・退職給与引当金繰入額が増加したため、行政費用合計が増加し、1㎡当たりコスト(円)・開館1日当たりコスト(円)が増加した。				

Ⅳ 施設運営の方向性(所管の考え方)

計画の有無	○ 無 ● 有 (計画名: ふれあい館整備ニュープラン)						
目標指標	指標名・単位		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度(見込み)
	年間利用者数	目標値	30,956	19,300	25,000	28,000	29,200
		実績値	15,946	20,907	23,883	28,554	29,200
施設運営の方向性	○ 転用・多目的化 ○ 民営化 ○ 他施設との統合 ○ 廃止 ● 現状維持 ○ その他()						
管理形態の変更の推移	○ 有 (変更内容:) ● 無						
利用者・地域のニーズ	児童に対する豊かな遊びの提供の場、切れ目ない地域の子育て拠点						
現状・課題	○積極的な地域との交流を継続的に行い、魅力的なプログラムを実施する必要がある。 ○児童事業実施ひろば館で唯一の多目的室を活用したひろば館運営が必要である。 ○子育て中の保護者の悩み等を把握し、地域の子育て拠点としての役割を果たす必要がある。 ○男女平等推進センターと一体になって施設の機能・性能の保全に努めながら、修繕を計画的に実施していく必要がある。						
課題に対する現時点での考え	○今後も地域との交流や、多目的室を活用した体を動かすプログラムを充実させ、中高生の居場所も提供することで、児童、生徒の利用増に繋がる取組みを進めていく。 ○保護者向け講座を充実させ、保護者同士の交流を図っていくとともに、保護者が気軽に相談できるように声掛けを行っていく。 ○日常点検や保守点検を有効活用し、危険箇所を事前に把握し、利用者が安心して利用できる環境を提供していく。						
議会、利用者等からの意見							



新型コロナウイルス感染症対策を行いながら館を運営し、利用者数は回復傾向である。

I 施設の概要		施設コード		S10-02-01	
施設名		花の木ひろば館			
所在地		荒川五丁目50番5号(荒川保育園併設)			
部課名		子ども家庭部児童青少年課			
施設の履歴	時期	建築費 (単位:千円)	財源内容 (単位:千円)		
			国・都	区債	一般財源
	建築	昭和45年	45,804		
	増改築①				
	増改築②				
併設施設					
竣工年月日		昭和45年10月24日		区職員	その他
供用開始年月日		昭和45年11月1日	職員数	16	0
構造		R C造	階層	地上4階	
面積		敷地面積	荒川保育園敷地内(1,065.22) m ²		
		延床面積	919 m ²		
設置目的・経緯		児童福祉の増進			
関連部署		保育課、区民施設課			
根拠法令等		荒川区区民ひろば館条例・同施行規則			
設置条例		荒川区学童クラブの運営に関する条例 等			
駐車場の状況	無	バリアフリー	○エレベーター	○トイレ	
駐輪場の状況	5台	対応状況	○点字ブロック	○スロープ	



管理形態	直営	-	期間	-	から
				-	まで

事業内容	地域の子育て支援・児童健全育成の拠点として、居場所の提供・様々な事業の実施により、乳幼児・小中高生の心身の発達支援を行うとともに、子育て家庭と保護者が抱える問題の発生予防及び早期発見に努める。また、館内において学童クラブを運営している。
------	--

対象者	0歳～18歳未満の児童及び乳幼児の保護者、学童クラブ利用児童
-----	--------------------------------

運営時間等	運営時間	午前9時30分～午後6時（学童クラブは午前8時15分～午後7時）
	休日	日曜日、祝祭日、年末年始

施設基本データ等		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度（見込み）
	年間利用者数（人）	27,180	32,091	33,310	30,140	30,800
	開館日数（日）	226	293	293	293	293
	学童クラブ定員（人）（4/1）	60	60	60	60	60
	学童クラブ在籍者数（人）（4/1）	42	61	68	72	70
指定管理に係る費用等						

備考	感染症対策を行いながら、事業を実施した。
----	----------------------

勘定科目		R4年度	R5年度	差額	勘定科目		R4年度	R5年度	差額
------	--	------	------	----	------	--	------	------	----

行政コスト計算書	行政費用	給与関係費	77,669	97,550	19,881	地方税等	0	0	0
		物件費	10,825	6,504	▲ 4,321	国庫支出金	11,807	5,576	▲ 6,231
		維持補修費	8,978	2,226	▲ 6,752	都支出金	15,323	7,282	▲ 8,041
		扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	3,103	2,829	▲ 274
		補助費等	494	166	▲ 328	使用料及び手数料	23	29	6
		減価償却費	0	0	0	その他	175	264	89
		不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	30,431	15,980	▲ 14,451
		賞与・退職給与引当金繰入額	3,419	9,480	6,061	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 70,954	▲ 99,946	▲ 28,992
		その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0
		行政費用合計(b)	101,385	115,926	14,541	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 70,954	▲ 99,946	▲ 28,992
		特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0
		特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 70,954	▲ 99,946	▲ 28,992

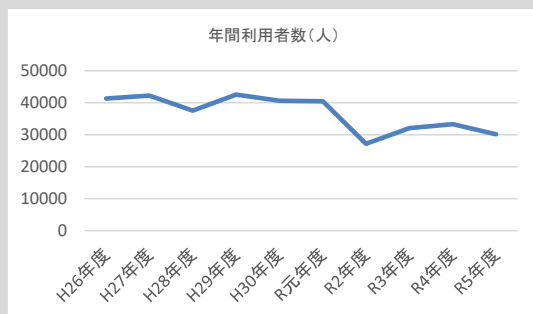
		勘定科目	R4年度	R5年度	差額			勘定科目	R4年度	R5年度	差額
貸借対照表	流動資産	収入未済	0	0	0	流動負債		3,419	4,964	1,545	
		不納欠損引当金	0	0	0	還付未済金		0	0	0	
		その他の流動資産	0	0	0	特別区債		0	0	0	
	固定資産	有形固定資産	0	0	0	賞与引当金		3,419	4,964	1,545	
		土地	0	0	0	その他の流動負債		0	0	0	
		建物	45,804	45,804	0	固定負債		38,932	42,592	3,660	
		建物減価償却累計額	▲ 45,804	▲ 45,804	0	特別区債		0	0	0	
		工作物等	0	0	0	退職給付引当金		38,932	42,592	3,660	
		工作物等減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債		0	0	0	
		無形固定資産	0	0	0	負債の部合計		42,351	47,556	5,205	
		建設仮勘定	0	0	0	正味財産		▲ 42,351	▲ 47,556	▲ 5,205	
		その他の固定資産	0	0	0	正味財産の部合計		▲ 42,351	▲ 47,556	▲ 5,205	
	資産の部合計	0	0	0	負債及び正味財産の部合計		0	0	0		

備考	令和5年度の行政費用については、職員の増等により、給与関係費が増加した。

指標	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度(見込み)
有形固定資産減価償却率(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	
1㎡当たりコスト(円)	91,975	106,109	110,339	126,164	
経費に占める収入の割合(%)	8	31	30.0	13.8	
開館1日当たりコスト(円)	373,942	332,758	346,024	395,652	
利用者1人当たりコスト(円)	3,109	3,038	3,044	3,846	
人にかかるコストの割合(%)	89.0	88	80.0	92.3	
財務指標・評価指標等					
備考	給与関係費の増により、行政費用合計が増加し、1㎡当たりコスト(円)・開館1日当たりコスト(円)・利用者1人当たりコスト(円)・人にかかるコストの割合(%)が増加した。				

Ⅳ 施設運営の方向性(所管の考え方)

計画の有無	○ 無 ● 有 (計画名: ふれあい館整備ニュープラン)						
目標指標	指標名・単位		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度(見込み)
	年間利用者数	目標値	27,860	32,900	39,000	37,000	30,800
		実績値	27,180	32,091	33,310	30,140	30,800
施設運営の方向性	○ 転用・多目的化 ● 現状維持		○ 民営化 ○ その他()		○ 他施設との統合 ○ 廃止		
管理形態の変更の推移	○ 有 (変更内容:) ● 無						
利用者・地域のニーズ	児童に対する豊かな遊びの提供の場、切れ目ない地域の子育て拠点						
現状・課題	○積極的な地域との交流を継続的に行い、魅力的なプログラムを実施する必要がある。 ○区内で唯一の木工室や読書コーナー等がある花の木ひろば館の施設の機能を活かしたひろば館運営が必要である。 ○子育て中の保護者の悩み等を把握し、地域の子育て拠点としての役割を果たす必要がある。 ○施設及び設備の老朽化により、改修等が必要な箇所がある。将来的にふれあい館への移行を見据えながら、施設の機能・性能の保全に努め、修繕を計画的に実施していく必要がある。						
課題に対する現時点での考え	○今後も地域との交流や、木工室等の施設の機能を活かし、魅力的な事業やプログラムを充実させ、中高生を含め、児童、生徒の利用増に繋がる取組みを進めていく。 ○保護者向け講座を充実させ、保護者同士の交流を図っていくとともに、保護者が気軽に相談できるよう声掛けを行っていく。 ○日常点検や保守点検を有効活用し、危険箇所を事前に把握し、利用者が安心して利用できる環境を提供していく。						
議会、利用者等からの意見							



新型コロナウイルス感染症対策を行いながら館を運営し、利用者数は回復傾向である。

令和6年度 施設分析シート

Ⅰ施設の概要			施設コード		S10-02-03	
施設名			ひぐらし小学童クラブ(旧西日暮里二丁目ひろば館)			
所在地			西日暮里二丁目32番25号(ひぐらし小学校敷地内)			
部課名			子ども家庭部児童青少年課			
施設の履歴	時期	建築費 (単位:千円)	財源内容(単位:千円)			
	建築	平成28年	289,008	国・都	区債	一般財源
	増改築①					
	増改築②					
併設施設						
竣工年月日		平成28年4月13日		区職員	その他	
供用開始年月日		平成28年4月18日	職員数	0	13	
構造		鉄骨造	階層	地上3階		
面積	敷地面積				562.75㎡	㎡
	延床面積				833.74㎡	㎡
設置目的・経緯		児童の健全な育成を図る				
関連部署						
根拠法令等 設置条例		学童クラブの運営に関する条例、学童クラブの設備及び運営の基準に関する条例等				
駐車場の状況		無	バリアフリー	●エレベーター	●トイレ	
駐輪場の状況		30台	対応状況	●点字ブロック	●スロープ	



Ⅱ 管理運営の状況

管理形態	委託	株式会社マミーインターナショナル	期間	令和4年4月1日 令和9年3月31日	から まで	
事業内容	児童が放課後を安心・安全に過ごし、様々な体験・活動を行うことができるよう、学童クラブとにこにこすくーる（放課後子供教室）を一体として運営する。					
対象者	学童クラブ・にこにこすくーる利用児童					
運営時間等	運営時間	午前8時15分～午後7時（にこにこすくーるは午前9時～午後5時）				
	休日	日曜日、祝祭日、年末年始				
施設基本データ等		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度（見込み）
	年間利用者数（人）	28,716	42,266	-	-	-
	開館日数（日）	226	293	-	-	-
	学童クラブ定員（人）	80	80	80	80	-
	学童クラブ在籍者数（人）（4/1）	57	66	80	79	-
に指定 用係 等管 理費						
備考	ふれあい館整備ニュープランにより、令和3年度末でひろば館機能が廃止、令和4年度より学童クラブ及びにこにこすくーるを委託化した。令和6年度普通教室棟への改修に伴い、学童クラブ及びにこにこすくーるは、令和5年度末に旧日暮里ひろば館へ移転したため、基本データ等の記載は令和5年度までとする。					

Ⅲ 財務諸表

(単位:千円)

勘定科目		R4年度	R5年度	差額	勘定科目		R4年度	R5年度	差額
行政コスト計算書	給与関係費	0	0	0	行政収入	地方税等	0	0	0
	物件費	48,846	46,043	▲ 2,803		国庫支出金	11,591	5,342	▲ 6,249
	維持補修費	275	107	▲ 168		都支出金	14,937	6,619	▲ 8,318
	扶助費	0	0	0		分担金及び負担金	3,589	3,620	31
	補助費等	33	25	▲ 8		使用料及び手数料	0	0	0
	減価償却費	9,772	9,772	0		その他	0	0	0
	不納欠損・賞倒引当金繰入額	0	0	0		行政収入合計(a)	30,117	15,581	▲ 14,536
	賞与・退職給与引当金繰入額	0	0	0		行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 28,809	▲ 40,366	▲ 11,557
	その他行政費用	0	0	0		金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用合計(b)	58,926	55,947	▲ 2,979		通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 28,809	▲ 40,366	▲ 11,557
	特別費用(g)	0	0	0		特別収入(f)	0	0	0
	特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0		当期収支差額(e)+(h)	▲ 28,809	▲ 40,366	▲ 11,557
貸借対照表	勘定科目	R4年度	R5年度	差額	勘定科目	R4年度	R5年度	差額	
	流動資産					流動負債			
	収入未済	0	0	0		還付未済金	0	0	0
	不納欠損引当金	0	0	0		特別区債	0	0	0
	その他の流動資産	0	0	0		賞与引当金	0	0	0
	有形固定資産	242,130	232,358	▲ 9,772		その他の流動負債	0	0	0
	土地	0	0	0		固定負債	0	0	0
	建物	271,447	271,447	0		特別区債	0	0	0
	建物減価償却累計額	▲ 29,316	▲ 39,088	▲ 9,772		退職給与引当金	0	0	0
	工作物等	0	0	0		その他の固定負債	0	0	0
	工作物等減価償却累計額	0	0	0		負債の部合計	0	0	0
	無形固定資産	0	0	0		正味財産	242,130	232,358	▲ 9,772
	建設仮勘定	0	0	0		正味財産の部合計	242,130	232,358	▲ 9,772
	その他の固定資産	0	0	0		負債及び正味財産の部合計	242,130	232,358	▲ 9,772
	資産の部合計	242,130	232,358	▲ 9,772					

備考 行政コストの大部分を、学童クラブ運営のための委託料等の物件費が占めている。また、トイレの照明の取り換え、インターホンの修繕を行ったため、維持補修費が生じた。

	指標	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度(見込み)
財務指標・評価指標等	有形固定資産減価償却率(%)	4	7	11	14.4	
	1㎡当たりコスト(円)	137,798	136,501	70,677	67,104	
	経費に占める収入の割合(%)	10	29	51	27.8	
	開館1日当たりコスト(円)	50,835	38,842	-	-	
	利用者1人当たりコスト(円)	4,001	2,693	-	-	
	人にかかるコストの割合(%)	83.0	76	0.0	0.0	
備考	令和3年度末でひろば館機能が廃止となったため、令和4年度の開館1日当たりコスト及び利用者1人当たりコストは不計上となっている。また、令和5年度は、運営委託費の物件費や修繕による維持補修費が減少したことに伴い、1㎡当たりにかかるコストが減少した。					

Ⅳ 施設運営の方向性（所管の考え方）

計画の有無	● 無 ○ 有（計画名： ）					
目標指標	指標名・単位	目標値	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
		実績値				R6年度(見込み)
施設運営の方向性	○ 転用・多目的化 ○ 民営化 ○ 他施設との統合 ○ 廃止 ○ 現状維持 ● その他（総合プランを移転(令和6年度から) ）					
管理形態の変更の推移	● 有（変更内容：令和6年度普通教室棟へ改修するため教育施設課へ引き継ぎ） ○ 無					
利用者・地域のニーズ	学齢人口は減少傾向にあるものの、保護者の就労状況等の社会状況の変化に伴い、利用者の需要は高くなっている。					
現状・課題	○保育の質の担保及び魅力的な活動プログラムを実施するため、職員の資質の向上を図るとともに、区と事業者が意見交換しやすい環境を整える必要がある。 ○ひぐらし小学校や地域と連携し、放課後子ども総合プラン（一体型）を推進していく必要がある。 ○地域の危険個所の把握を行いながら、児童の安全確保及び児童への安全指導を行う必要がある。					
課題に対する現時点での考え	○保育の質の向上を図るため、区職員による各学童クラブへの巡回指導と支援を強化していくほか、定期的に区と事業者との連絡会を開催し、意見交換が出来るよう努めていく。 ○旧日暮里ひろば館への移転後も引き続き、ひぐらし小学校と調整し、校内スペースを有効活用したり、地域の協力の下、体験学習等を充実することにより、一体型総合プランを推進していく。 ○移転に伴い施設周辺の状況も変わったことから、地域の巡回等を行い、危険個所の把握や情報収集を行うことで、児童の安全確保に努めていく。					
議会、利用者等からの意見						

令和6年度 施設分析シート

Ⅰ 施設の概要			施設コード		S10-02-04	
施設名		二日小学童クラブ				
所在地		東日暮里六丁目19番12号				
部課名		子ども家庭部児童青少年課				
施設の履歴	時期	建築費 (単位：千円)	財源内容（単位：千円）			
	建築	平成25年	104,992	国・都	区債	一般財源
	増改築①	令和3年	25,520	24,000		
	増改築②					
併設施設						
竣工年月日		令和3年3月12日		区職員	その他	
供用開始年月日		令和3年4月1日	職員数		5	
構造		鉄骨造	階層	地上2階		
面積		敷地面積			536	m
		延床面積			435	m
設置目的・経緯		児童の健全な育成を図る				
関連部署						
根拠法令等 設置条例		学童クラブの運営に関する条例、学童クラブの設備及び運営の基準に関する条例等				
駐車場の状況		無	バリアフリー	● エレベーター	● トイレ	
駐輪場の状況		無	対応状況	● 点字ブロック	● スロープ	



Ⅱ 管理運営の状況

管理形態	委託	株式会社日本デイケアセンター	期間	令和3年4月1日 令和6年3月31日	から まで	
事業内容	保護者の就労等により、昼間家庭において、適切な保護を受けることができない小学校在学児童に対し、適正な遊びと生活の場を提供する。また、学校休業日を中心に、二日小にこにこすくー（放課後子ども教室）と連携し、放課後子ども総合プランとして運営する。					
対象者	保護者の就労等により、放課後に適切な保護を受けることができない荒川区に居住する小学校に在学する児童					
運営時間等	運営時間	午前8時15分から午後7時まで				
	休日	日曜日、祝祭日、年末年始				
施設基本データ等	学童クラブ定員（人）（4/1）	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度（見込み）
			90	90	90	90
	学童クラブ在籍者数（人）（4/1）		76	79	87	83
に指定 用等 管理費理						
備考	学齢人口は減少傾向にあるものの、保護者の就労状況等の社会状況の変化に伴い、在籍児童数は増加している。					

Ⅲ 財務諸表

(単位：千円)

勘定科目		R4年度	R5年度	差額	勘定科目		R4年度	R5年度	差額
行政コスト計算書	給与関係費	0	0	0	行政収入	地方税等	0	0	0
	物件費	28,490	30,568	2,078		国庫支出金	12,277	4,298	▲ 7,979
	維持補修費	754	368	▲ 386		都支出金	13,753	4,298	▲ 9,455
	扶助費	0	0	0		分担金及び負担金	3,806	3,877	71
	補助費等	0	0	0		使用料及び手数料	0	0	0
	減価償却費	3,677	3,677	0		その他	0	0	0
	不納欠損・賞倒引当金繰入額	0	0	0		行政収入合計(a)	29,836	12,473	▲ 17,363
	賞与・退職給与引当金繰入額	0	0	0		行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 3,085	▲ 22,140	▲ 19,055
	賞与・退職給与引当金繰入額	0	0	0		金融収支差額(d)	0	0	0
	その他行政費用	0	0	0		通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 3,085	▲ 22,140	▲ 19,055
	行政費用合計(b)	32,921	34,613	1,692		特別収入(f)	0	0	0
	特別費用(g)	0	0	0		当期収支差額(e)+(h)	▲ 3,085	▲ 22,140	▲ 19,055
	特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0					
貸借対照表	勘定科目	R4年度	R5年度	差額	貸借対照表	勘定科目	R4年度	R5年度	差額
	流動資産					流動負債			
	収入未済	0	0	0		還付未済金	0	0	0
	不納欠損引当金	0	0	0		特別区債	0	0	0
	その他の流動資産	0	0	0		賞与引当金	0	0	0
	有形固定資産	676,888	673,211	▲ 3,677		その他の流動負債	0	0	0
	土地	584,010	584,010	0		固定負債	0	0	0
	建物	104,991	104,991	0		特別区債	0	0	0
	建物減価償却累計額	▲ 12,114	▲ 15,791	▲ 3,677		退職給与引当金	0	0	0
	工作物等	2,973	2,973	0		その他の固定負債	0	0	0
	工作物等減価償却累計額	▲ 2,972	▲ 2,972	0		負債の部合計	0	0	0
	無形固定資産	0	0	0		正味財産	676,888	673,211	▲ 3,677
	建設仮勘定	0	0	0		正味財産の部合計	676,888	673,211	▲ 3,677
	その他の固定資産	0	0	0		負債及び正味財産の部合計	676,888	673,211	▲ 3,677
	資産の部合計	676,888	673,211	▲ 3,677					

備考 行政コストの大部分を、学童クラブ運営のための委託料等の物件費が占めている。また、照明及び空調機の修繕等に伴い、維持補修費が生じた。

	指標	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度(見込み)
財務指標・評価指標等	有形固定資産減価償却率(%)	-	11	14.0	17.4	
	1㎡当たりコスト(円)	-	71,687	75,680	79,570	
	受益者負担比率(%)	-	10	12	11.2	
	利用児童1人当たりの年間コスト(円)	-	410,316	416,722	397,851	
備考	令和5年度については、利用児童数が増加したことに伴い、利用児童1人当たりの年間コストが減少した。					

Ⅳ 施設運営の方向性（所管の考え方）

計画の有無	● 無 有 (計画名:)						
目標指標	指標名・単位		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度(見込み)
		目標値 実績値					
施設運営の方向性	● 転用・多目的化 ● 現状維持	民営化 その他()	他施設との統合		廃止		
管理形態の変更の推移	● 有 (変更内容:) ● 無						
利用者・地域のニーズ	学齢人口は減少傾向にあるものの、保護者の就労状況等の社会状況の変化に伴い、在席児童数は増加している。						
現状・課題	○保育の質の担保及び魅力的な活動プログラムを実施するため、職員の資質の向上を図るとともに、区と事業者が意見交換しやすい環境を整える必要がある。 ○放課後子ども総合プラン推進の観点から、小学校の余裕教室の状況や、学童クラブ需要の推移等を注視していく必要がある。 ○安全・安心な保育環境を確保するため、施設の計画的な点検及び修繕を行う必要がある。						
課題に対する現時点での考え	○安全・安心な保育環境の確保及び保育の質の向上を図るため、各学童クラブへの巡回指導と支援を強化していくほか、定期的に職員の連絡会を開催し、意見交換が出来るよう努めていく。 ○二日小にこにこすくーる（放課後子供教室）と連携した運営を継続しつつ、長期的な学童クラブ需要の推移を踏まえ、今後の建物の在り方について検討を進めていく。 ○不具合箇所に関する調査や巡回によって施設の状況を把握し、計画的に修繕を行っていく。						
議会、利用者等からの意見							

I 施設の概要			施設コード	S10-02-05		
施設名	南千住六丁目学童クラブ					
所在地	南千住六丁目68番7号					
部課名	子ども家庭部児童青少年課					
施設の履歴	時期	建築費 (単位:千円)	財源内容 (単位:千円)			
	建築	令和3年	231,847	国・都	区債	一般財源
	増改築①					
	増改築②					
併設施設						
竣工年月日	令和3年2月26日			区職員	その他	
供用開始年月日	令和3年4月1日		職員数		6	
構造	鉄骨造		階層	地上2階		
面積	敷地面積				421 m ²	
	延床面積				436 m ²	
設置目的・経緯	児童の健全な育成を図る					
関連部署						
根拠法令等 設置条例	学童クラブの運営に関する条例、学童クラブの設備及び運営の基準に関する条例等					
駐車場の状況	無	バリアフリー	エレベーター	● トイレ		
駐輪場の状況	無	対応状況	● 点字ブロック	● スロープ		



管理形態	委託	株式会社マミーインターナショナル	期間	令和3年4月1日 令和8年3月31日	から まで	
事業内容	保護者の就労等により、昼間家庭において、適切な保護を受けることができない小学校在学児童に対し、適正な遊びと生活の場を提供する。					
対象者	保護者の就労等により、放課後に適切な保護を受けることができない荒川区に居住する小学校在学する児童					
運営時間等	運営時間	午前8時15分から午後7時まで				
	休日	日曜日、祝祭日、年末年始				
施設基本データ等	学童クラブ定員（人）（4/1）	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度（見込み）
	学童クラブ在籍者数（人）（4/1）		100	100	110	110
			85	106	112	110
に指定 用等 管理 費理						
備考	学齢人口は減少傾向にあるものの、保護者の就労状況等の社会状況の変化に伴い、在籍児童数は増加している。					

勘定科目		R4年度	R5年度	差額	勘定科目		R4年度	R5年度	差額
行政コスト計算書	給与関係費	0	0	0	行政収入	地方税等	0	0	0
	物件費	38,717	36,798	▲ 1,919		国庫支出金	15,669	5,668	▲ 10,001
	維持補修費	79	62	▲ 17		都支出金	17,146	5,668	▲ 11,478
	扶助費	0	0	0		分担金及び負担金	4,775	5,054	279
	補助費等	0	0	0		使用料及び手数料	0	0	0
	減価償却費	10,093	10,093	0		その他	0	0	0
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0		行政収入合計(a)	37,590	16,390	▲ 21,200
	賞与・退職給与引当金繰入額	0	0	0		行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 11,299	▲ 30,563	▲ 19,264
	その他行政費用	0	0	0		金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用合計(b)	48,889	46,953	▲ 1,936		通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 11,299	▲ 30,563	▲ 19,264
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0		
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 11,299	▲ 30,563	▲ 19,264		
貸借対照表	勘定科目	R4年度	R5年度	差額	勘定科目	R4年度	R5年度	差額	
	流動資産				流動負債				
	収入未済	0	0	0	還付未済金	0	0	0	
	不納欠損引当金	0	0	0	特別区債	0	0	0	
	その他の流動資産	0	0	0	賞与引当金	0	0	0	
	有形固定資産	226,993	216,900	▲ 10,093	その他の流動負債	0	0	0	
	土地	0	0	0	固定負債	0	0	0	
	建物	247,179	247,179	0	特別区債	0	0	0	
	建物減価償却累計額	▲ 20,186	▲ 30,279	▲ 10,093	退職給与引当金	0	0	0	
	工作物等	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0	
	工作物等減価償却累計額	0	0	0	負債の部合計	0	0	0	
	無形固定資産	0	0	0	正味財産	226,993	216,900	▲ 10,093	
	建設仮勘定	0	0	0	正味財産の部合計	226,993	216,900	▲ 10,093	
	その他の固定資産	0	0	0	負債及び正味財産の部合計	226,993	216,900	▲ 10,093	
資産の部合計	226,993	216,900	▲ 10,093						

行政コストの大部分を、学童クラブ運営のための委託料等の物件費が占めている。また、トイレの修繕・ドアクローザーの修繕に伴い、維持補修費が生じた。

	指標	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度(見込み)
財務指標・評価指標等	有形固定資産減価償却率(%)	-	4	8	12.2	
	1㎡当たりコスト(円)	-	110,984	112,131	107,597	
	受益者負担比率(%)	-	8	10	10.8	
	利用児童1人当たりの年間コスト(円)	-	569,776	461,217	419,223	
備考	令和5年度については、定員増に伴い在籍児童数が増加し、利用児童1人当たりの年間コストが減少した。					

Ⅳ 施設運営の方向性（所管の考え方）

計画の有無	☒ 無 ☐ 有 (計画名:)					
目標指標	指標名・単位	目標値	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
		実績値				R6年度(見込み)
施設運営の方向性	☐ 転用・多目的化 ☐ 民営化 ☐ 他施設との統合 ☐ 廃止 ☒ 現状維持 ☐ その他()					
管理形態の変更の推移	☐ 有 (変更内容:) ☒ 無					
利用者・地域のニーズ	学齢人口は減少傾向にあるものの、保護者の就労状況等の社会状況の変化に伴い、在席児童数は増加している。					
現状・課題	○保育の質の担保及び魅力的な活動プログラムを実施するため、職員の資質の向上を図るとともに、区と事業者が意見交換しやすい環境を整える必要がある。 ○放課後子ども総合プラン推進の観点から、小学校の余裕教室の状況や、学童クラブ需要の推移等を注視していく必要がある。 ○安全・安心な保育環境を確保するため、施設の計画的な点検及び修繕を行う必要がある。					
課題に対する現時点での考え	○安全・安心な保育環境の確保及び保育の質の向上を図るため、各学童クラブへの巡回指導と支援を強化していくほか、定期的に職員の連絡会を開催し、意見交換が出来るよう努めていく。 ○現状の学童クラブ運営を継続しつつ、長期的な学童クラブ需要の推移を踏まえ、今後の在り方について検討を進めていく。 ○不具合箇所に関する調査や巡回によって施設の状況を把握し、計画的に修繕を行っていく。					
議会、利用者等からの意見						